

第六分科会第5回会合発言メモ

東京大学 鈴木篤之

1. プルトニウム利用政策に対する国際的な理解の増進

(1) 必要性

- ・エネルギーセキュリティ(世界一の資源小国、世界一の中東依存度)
- ・資源リサイクル(リサイクル技術・リサイクル社会の形成)

(2) 安全性

- ・事故時の安全性(落下・火災・沈没事故)
- ・MOXとウラン燃料のちがい(軽水炉利用の実績)

(3) 透明性

- ・経済合理性(天然ウラン→濃縮ウラン燃料とMOX燃料の比較)
- ・在庫・利用計画(国内・英仏)

2. 使用済み燃料再処理・管理を巡る対応

(1) 柔軟性

- ・中間貯蔵(サイト内・サイト外・県内・県外/ポートフォリオ)
- ・国際動向(米国のMRS、ドイツのゴアレーベン)

(2) 経済性

- ・原子力発電規模(50基・3,500億kW時)
- ・六ヶ所再処理工場(800ton/yr・45GWd/t 3,000億kW時)

(3) 核不拡散

- ・北朝鮮(使用済み燃料管理・IAEA査察・KEDO)
- ・使用済み燃料基準(解体核のプルトニウム管理・国際管理)

3. 国際輸送の円滑な実施

(1) 国際協力・協調

- ・ルート関係国(対話・信頼醸成)
- ・英仏(対米・外交交渉)

(2) グローバルな課題

- ・核軍縮促進(米ロ間・カナダ)
- ・研究炉燃料(米国・オーストラリア)